

# シアーズホームグループカップ

## 第24回KAB旗熊本県中学硬式野球選手権大会

### \*\*\* 大会概要 \*\*\*

- 大会名 シアーズホームグループカップ  
第24回KAB旗熊本県中学硬式野球選手権大会
- 主催/主管 熊本県中学硬式野球選手権大会実行委員会
- 共催 熊本朝日放送株式会社
- 特別協賛 シアーズホームグループ
- 出場チーム  
(リトルシニア) 熊本北、熊本東、熊本西、熊本大津、八代、熊本北部、熊本県央  
(ボーイズ) 熊本宇城、北熊本、熊本田原坂、熊本西部、熊本中央、熊本泗水、熊本光の森
- 試合会場 山鹿市民球場、蒲生の池野球場、未来工業グラウンド、吉松運動公園野球場
- 日程 令和3年8月21日(土)22日(日) 【予備日】28日(土)29日(日)
- 応援 保護者及びチーム関係者の人数は極力絞り、全員での合唱等は禁止する。
- 肖像権 主催者及び共催者が撮影する大会に関する映像等の肖像権は、主催者及び共催者に帰属する。
- 入場制限 会場へ入場するすべての者は当日検温し、37.5℃以上の者は入場を禁止する。  
また、同居する親族等に発熱者がいる場合も入場を禁止する。

注意：新型コロナウイルス感染予防対策については、格段の配慮を行い、各チーム及び大会関係者は予防に努めること。感染者が出た場合は大会を中止する場合もある。

## 【新型コロナウイルス感染拡大防止対策について】

本大会を開催するにあたり、以下の事項による対策を講じることを基本とし、各会場及び球場の対策方針に従い行うこととする。

1 大会開会式及び閉会式は中止する。表彰式は最低限の人数、時間で簡素に行う。

### 2 大会運営方法

- (1) 球場担当役員、放送、記録、審判等の大会本部従事者は必要最小限の者とし、必要に応じ本部を屋外(スタンド)に設置し、感染予防対策及び防球ネット等の安全対策を講じる。
- (2) 試合間隔は試合時間を含め原則3時間を取り密にならないように配慮する。
- (3) 試合ベンチは必要に応じグラウンド内にもスペースを広げ、防球ネット等で安全対策を行い密度が高まらないように努める。
- (4) チーム到着時及び帰途時の挨拶は、なしとする。
- (5) 試合前審査は道具審査のみとし、メンバー表交換は大会役員1名、審判1名、監督、主将で行う。
- (6) 球場接待は、原則禁止する。
- (7) 本部席、ベンチ、トイレに消毒液、又はハンドソープを設置し、試合終了後は当該チームでベンチを消毒する。
- (8) 試合会場入りは1時間前とし、試合終了後は速やかに会場を退出する。
- (9) 大会本部は体温計、ハンドソープ、消毒液等を準備する。
- (10) 発熱者の大会参加(観戦を含む)は禁止する。尚、対象は選手、役員、指導者、観戦者等。
- (11) ベンチ入りする者及び大会役員は、会場入りするとき検温し、発熱が認められるときは会場入りできない。

### 3 試合に関して

- (1) ベンチ内においては原則マスク着用とするが、熱中症等の予防に配慮し臨機応変に対応すること。
- (2) 指示、掛け声は飛沫が飛ばないように配慮し、メガホンの使用は禁止する。
- (3) 試合開始及び試合終了の挨拶は声を出さず礼のみとする。
- (4) 捕手は防具を自ら着用し補助者を使わない。
- (5) 審判はマスクを着用し判定コールは大声を出さずジェスチャーを大きく行ってジャッジする。
- (6) マスク着用は熱中症等のリスクが高くなるため時間を取るなど十分配慮する。

### 4 参加チームについて

- (1) 参加チームの保護者等応援者は、マスクを着用し観客席にて2m以上の間隔を取り、飛沫が飛ぶような大声での応援は禁止する。
- (2) チームの飲料水は個人水筒や専用ペットボトル等を用意し、感染防止に努める。
- (3) 昼食等を取る場合は対面にならないう2m以上の間隔を取り最低限の時間で済ませる。また、他チームとの必要外の接触は避ける。
- (4) 大会会場へは1時間前以上早く入らない。また試合終了後は速やかに帰途に着くこと。
- (5) 選手の移動については全ての車両に於いてこまめな喚起を行い密閉、密集、密接にならないよう注意する。
- (6) 大会参加にあたり、チームの基本的な対策及びハンドソープ、消毒液等備品は自チームで用意し選手、スタッフ、保護者等の管理はチームで責任をもって行う。
- (7) 以上の対策については、感染リスクがゼロではありませんので、各チームは参加選手、保護者によく説明を行い、同意、承諾を得た上で本大会に参加すること。また、チームからの大会参加の強制は禁止する。

## 【大会特別規定】

### 《大会約款》

- 1 本大会に参加できるチーム及び選手は所属団体の規定を満たすもので、2020年5月末日の時点で各所属団体に登録を完了したチーム（監督、コーチ及び選手）、かつ熊本県内に所在する団体で実行委員会の承認を得たチームとする。
- 2 チームは、単独チームとし登録選手は25名以内で編成し、ベンチ入りは選手20名以内、監督、コーチ2名、スコアラーとする。本大会登録締切り日以降の選手、監督の変更は原則として認めない。ただし、登録した選手が怪我や病気のため出場できなくなった場合は、登録選手変更届を大会初日の試合開始前に大会本部へ申し出て承認されれば、選手の変更は出来ることとする。監督及びコーチに関しては登録している監督・コーチについて試合前に大会本部に申し出て承認されれば変更が認められる。
- 3 選手、監督及びコーチ（スコアラーを除く）は同一のユニホームを着用すること。なお、背番号は所属の団体の規定に従う。
- 4 各チームは必ず成人である引率者が、大会中（集合日から解散まで）選手の行動並びに観客席での応援等に対して責任を負うこと。（原則として、鳴り物の応援は禁止する）
- 5 ゴミ等は球場施設に捨てず、必ず各チームで持ち帰ること。スタンドで応援する選手、家族等にも徹底させること。
- 6 障害処置については、各チームで応急処置及び対応をすることとし、主催者は責を負わない。

### 《競技に関する特別規則》

- 1 各チームの監督と主将は試合開始時刻の40分前、または前試合4回終了後（コールドゲームのときは試合終了次第）、所定のメンバー表を大会本部（各会場）に提出し、同時に大会本部競技委員及び審判員立会いのもとで攻守の順を決める。なお、この際、所定の投球回数申告用紙（投手ごとに前試合及び前日までの投球回数を各所属団体の用紙に記載）も併せて提出すること。  
また、大会本部競技委員は提出されたメンバー表と登録原稿との照合を行うとともに、試合開始前に用具の点検を行う。
- 2 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。（4回表を終わった際、または4回裏の途中で打ち切れを命じられた試合で後攻チームの得点が先行チームの得点より多いとき。）試合成立後に、降雨や視界不良等により試合続行が不可能となった場合は、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。  
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンテッドゲームとし、本大会本部が指定した日時、場所で中断した状況で再開する。
- 3 4回終了時に10点差及び5回終了以降7点差の場合は、コールドゲームとする。ただし、決勝戦にはコールドゲームは適用しない。
- 4 7回終了後、同点の場合あるいは試合開始から2時間を越えては（どちらか早い方。）新しいイニングに入らず、以下の方法でタイブレーク方式を実施する。但し、4回終了まではこの限りではない。  
なお、決勝戦については試合開始から2時間20分を超えて新しいイニングに入らない。同点の場合はタイブレーク方式を実施する。

<タイブレーク実施細則（延長回数に関する特別規則）>

- (i) 7回終了あるいは試合開始から2時間を越えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ii) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (iii) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (iv) この場合の代打及び代走は認められる。

5 投手の投球回数に関しては、「中学生の投球制限に関する統一ガイドライン」に基づくものとする。

6 指名打者制度は採用しない。

<中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン>

1日7イニング以内とし、連続する2日間で10イニング以内とする。また、1日に複数試合に登板した投手、連続する2日間で合計5イニングを超えた投手（5イニングは可）及び3日間連続で登板した投手は、翌日に投手または捕手として出場することは出来ないものとする。ただし、イニングの端数（0/3、1/3、2/3）は1イニングとみなす。

	第一 日目	第二 日目	第三 日目	第四 日目	第五 日目	第六 日目	第七 日目	第九 日目	第十 日目	備 考
投手A	7	3	休	4	1	7	休	0	0	二日目は上限3イニングまで、三日目と七日目は投手・捕手として出場出来ない
投手B	2	3	2	休	3	3	休	3	0	一日目から3日間連続で登板したので四日目は投手・捕手として出場は出来ない。5日目と六日目の合計が5イニングを超えたため、七日目は投手・捕手として出場出来ない。
投手C	3	3	休	1	1	1	休	3	休	一と二、八と九の合計は、いずれも5イニングを超えている。また、四から3日間連続登板している。従って三日目、七日目、十日目は投手・捕手として出場出来ない。
投手D	7	0	0	2	休	5	5	休	0	二、三日目は登板なし、四日目はダブルヘッダーで両試合に登板したため、五日目は投手・捕手として出場出来ない
				2						
投手E	0	3	0	1	休	5	5	休	2	二、三日目はチームがダブルヘッダーの試合であったが、片方の試合のみ登板のため、翌日の制限はなし。五日目は二から四まで3日間連続登板のため、投手・捕手として登板できない。八日目は前2日間の合計が5イニングを超えているので投手・捕手としては出場出来ない。
		0	2							
投手F	2	3	休	7	3	休	3	2	休	五日目は第一試合で前日との合計が10イニングに達したため、ダブルヘッダーの第二試合及び翌日のダブルヘッダーは投手・捕手として出場出来ない。
		4			休	休				

6 選手が打席に入るときは、必ず両耳付きヘルメットをかぶること（次打者も含む）。また、走者も危険防止のため必ず着用すること。

なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること（練習時も含む）。

7 特別代走を認める。これは、特別な事情（死球による負傷など）により、一時的に休めば試合に出場できると審判員が判断したときに限り適用できる。この場合、その打者の最も近い打撃が完了した選手（投手を除く）を特別代走者とする。

- 8 本大会では、金属バット並びに金属と他の材質との接合バットの使用を認める。但し、各所属団体公認のものに限る。
- 9 監督（コーチ）が一試合（7イニング）に投手のもとへ行ける回数を2回までとする（投手を交代させる場合は回数と数えない）。監督（コーチ）が2度投手のもとへ行った後、3度目に行けば、そのときの投手は自動的に交代しなければならない。この場合は、他の守備位置につくことはできるが、その試合で投手に戻ることは出来ない。また、監督（コーチ）が投手のもとへ行った場合を除き、守備側のタイムは1試合（7イニング）につき2回までとする。（捕手は除く）攻撃側のタイムは1試合（7イニング）につき2回までとする。  
延長に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、監督（コーチ）が投手のもとへ行ける回数は3イニングにつき1回とする。  
守備側のタイムは3イニングに1回とする。  
攻撃側のタイムは3イニングに1回とする。
- 10 監督またはコーチが同一投手のもとへ行くことに関して1イニングに2度行けば、投手は交代することとなるが、野球規則8.06にもかかわらず、他の守備に就くことが出来る。ただし、その試合の投手に戻ることは出来ない。
- 11 規則3.03【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることは出来ない」は適用しない。
- 12 その他特に定めのない限り、公認野球規則を適用する。

#### 《大会特別規定・補足》

- 1 球場に到着したチームは、速やかに大会本部にその旨を報告する。
- 2 ベンチは組合せ表の上段（左側）のチームを一塁側とする。
- 3 グランドインから試合終了まで、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチに入ることが出来ない。
- 4 グランドインしたチームは大会本部競技委員の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
- 5 試合前のシートノックは7分間とする。なお、守備位置につかずシートノックの補助をする登録選手はヘルメットを着用すること。
- 6 試合をスピーディーに行うため以下の項目を守ること。
  - (a) 攻守交代時に守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング（円陣）に加わらず、所定の位置に速やかに着くこと。
  - (b) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球し、これを受けた投手は、直ちに投手板を踏んで、投球位置につき、捕手からのサインを受けること。
  - (c) 打者は、みだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しないときはインプレイとする。
  - (d) 次打者は、必ずネクスト・バッターボックスに入り、低い姿勢で待機すること。（ただし、サークス内でのスイングは禁止する。）
  - (e) 捕手は、投手に返球したり野手に声をかけるために、一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
- 7 コーチボックスには登録選手が入り、必ずヘルメットを着用すること。（選手は両耳ヘルメットを着用する。）

- 8 規則4.06に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー等いずれも相手選手を惑わすような行動をとってはならない。
- 9 手袋、リストバンド、リストガード、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合は、これらの脱着のためだけのタイムは認められない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの脱着のタイムを認める。(速やかにベースコーチが取りに行くこと)
- 10 サングラスは、日よけ防止のため外野手のみ身につけることができる。ただし、疾病等によりサングラスの使用が必要な場合は審判員の判断で許可する。首輪(リング)については、ユニホームの外からは見えないように身につけるものとし、露見するものは禁止する。
- 11 試合中、次の試合のチームはバッテリー1組に限り5回終了時からブルペンにて投球練習ができる。
- 12 グランド内でのブルペンで投球練習を行うときは安全対策上、打球監視員を必ず1名置くこと。試合中の投球及び送球練習は、ブルペンにて1組とする。
- 13 バットボーイ、ボールボーイ、シートノック補助員は登録選手が務め、両耳ヘルメットを着用すること。
- 14 ダブルヘッダーが実施される場合は、大会本部及び各球場の競技責任者の指示に従うこと。